

活動レポート

りす会山口

「あらいぐま作戦 in 山口周南」
～山口でできる、被災写真洗浄～

今回は、東日本大震災の津波で流されてしまった写真をきれいに行っている「りす会山口」を紹介します！

1 津波に流され、土砂にまみれてしまったアルバムがたくさんありますね。これはどこから送られてくるの？

被災地で写真の回収・返却をしている団体から、地域別に分けた写真を送ってもらいます。今、受け持っているのは、岩手県陸前高田市、宮城県亘理（わたり）郡亘理町・山元町の写真です。

2 どのようにしてきれいにするの？

作業手順は、概ね 10 工程あります。

- ①剥がし作業…アルバム台紙から写真を取り出す。
- ②予備清掃…④のスキャン作業をするため、土砂を取り除く。
- ③ナンバリング…アルバムに貼ってあった順番どおりに、写真の裏にナンバーシールを貼る。
- ④スキャン作業…洗浄前に写真をデータ保存する。
- ⑤仕分け作業…写真を、洗うもの・拭くもの・現状維持するものに分ける。
- ⑥洗いおよび拭き作業
- ⑦乾燥作業…洗濯ばさみで写真を1枚ずつ挟み、それをロープに吊るし、しっかり乾燥させる。
- ⑧アルバム化…写真を新しいアルバムに収める。
- ⑨仕上げ・点検作業
- ⑩梱包・発送作業

被災地から送ってもらう写真は1回あたり 2,000 枚ほどありますが、全ての工程を終えるには約3ヶ月かかります。



3 損傷が激しい写真も多々あって、扱いが難しそうですが…

確かに痛みのひどいものは注意が必要ですが、作業に特別な技術は要りません。自分の写真だと思って1枚1枚丁寧に扱ってもらえれば、初心者でも大丈夫です。

今回も、福岡県の方や市内の高校生など、7名の「初参加あらいぐま」が来てくれています。

4 きれいにするために特別な道具を使ったりするの？

いえ、剥がし作業にはカッター、土砂を取り除く作業には歯ブラシやヘラというように、日用品がほとんどです。洗浄は基本的に水で、特別な薬品類は使いません。作業にはその他、ゴム手袋やマスク、ウェットティッシュ、ポケットアルバムなど、こまごまと量もたくさん要るのですが、これらの大半は富士フィルムさんが提供してくれるので助かっています。



5 持ち主はどうやって見つけるの？

持ち主探しは被災地の支援団体が担っています。しかし、作業中に持ち主が特定できそうな情報、たとえば制服に付けられた名札や、新郎新婦と一緒に写っている披露宴会場名などはメモし、「手がかりになれば」という思いを込めて、写真と共に返送しています。

6 活動を続けてきて、感じることは？

大切な人や家を失った方が、実物を取り戻せる物の一つに写真があります。写真はモノですが、単純にモノではないと感じます。

それは、写真がその人の人生の節目や生きてきた証しを表すものと考えからです。

写真をお渡しすることによって、これまでの人生を取り戻し、それを土台にしてこれからの人生を歩む力の基になってほしいと願っています。

また、被災地の方は、忘れ去られること、風化を恐れています。「忘れていないよ」というメッセージを送ることが一助になると思い、写真がある限り活動を続けていきます。



周南では、周南市徳山社会福祉センターで週末に活動中！

【問合せ先】 りす会山口

Tel 090-4898-9264(金子)

メール yamaraiguma@gmail.com

ブログ <http://yamaraiguma.blog.fc2.com/>